

「小石川植物園の台風被害 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



私の画のスタイルは、できるだけ現地で風景を見て、その場で仕上げる「現場主義」である。えの道具は簡単で、折りたたみの小さな椅子にのってしまふ。そのほかにも描画の必需品(みかん、柿ピーなど)もある。



それにしても倒木や、折れ枝が多い。普段よりも森が明るく見えたのは、枝や葉が減って、太陽光が林床(りんしょう)まで届きやすくなったからだ。



植物園の奥の敷地境の壁近くにも、途中で真っ二つに折れた木が何本もあった。(写真は「ハリグワ」) 壁の外側は白山二丁目の住宅街だが、木は全て植物園側に倒れたようで、幸い民家に被害はなかったようだ。



この木も太い枝が完全に折損している。樹木にとって枝が折れることは、光合成が不完全になり、生命に関わることである。落葉樹が秋に急いで葉を落とすのは、雪の重さから枝を守るというのが重要な理由だ。



折れずに根こそぎ倒れた木もある。この「マユミ」の木は、根元の土がめくれあがり、地面から 20° の角度まで傾いている。しかし生きているようだ。このきわどい姿勢のまま、成長を続けるかも知れない。